



がんばらなくても、キレイが続く
ウラワザがいっぱい。

STEDIA
ステディア



そのキッチンには
ウラがある。



キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ
第69期 第2四半期
報告書

2021年4月1日から 2021年9月30日まで

クリナップ®株式会社

〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6-22-22



証券コード 7955

株主の皆さまへ



代表取締役会長
井上 強一



代表取締役
社長執行役員
竹内 宏

■ 企業理念

家族の笑顔を作ります

■ 行動理念

私たちは、心豊かな食・住文化を作ります

私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます

私たちは、自らの家族に誇れる企業を作ります

内外両要因により、業績は回復基調で推移

当期は、前期に引き続きコロナ禍の影響により、経済活動が制限され、国内経済は厳しい状況となりました。住宅設備機器業界におきましては、世界的な原材料／資材の供給不足など未だ先行き不透明な状況が続いておりますが、巣籠もり需要の影響などもあり、需要はやや回復基調で推移いたしました。

こうした中、当社は、新たに「2021年中期経営計画」(以下、「21中計」という)をスタートさせ、「CENTRO」(セントロ)、「STEDIA」(ステディア)を中核とするお客様のニーズを捉えた付加価値の高い商品の市場への提供や、「イエナカフェ」、「オンラインショールーム」などの新しい生活様式に対応した施策等を推し進めるとともに、全社的な原価低減や経費削減など、利益体質への改善にも取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の連結業績は、売上高が前年同期比15.2%増の54,937百万円と大幅な増収に加え、営業利益についても2,166百万円と大幅な増益となりました(前年同期は85百万円)。

長期ビジョン実現への第一歩として、新中計を推進

時代の大きな転換期を迎え、私たちは、持続的な成長のためには何をすべきかということを考え、10年後を見据えた長期ビジョン「クリナップ サステナブルビジョン 2030『人と暮らしの未来を拓く』」を策定し、そこへの第一歩として「21中計」を始動しました。この「21中計」では、「クリナップグループの強みを発揮し、『持続的な成長』を実現します」を基本方針とし、3つの戦略を推進してまいります。戦略1「既存事業の需要開拓、低収益からの転換」については、キッチン・浴室・洗面の水まわり3品事業での安定した収益確保を目指します。戦略2「新規事業による新たな顧客の創造」については、新規事業、海外事業に取り組み、新たな事業領域への拡大を目指します。戦略3「ESG/SDGs視点での経営基盤の強化」については、事業を通じた重要課題(ESG・SDGs課題)の解決に取り組んでまいります。

私たちクリナップは、これからも、企業理念「家族の笑顔を作ります」のもと、更なる企業価値の向上と持続的成長に向け、グループ一丸となって邁進してまいります。

株主の皆さまには、引き続き変わらぬご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

長期ビジョン

■ クリナップ サステナブルビジョン 2030(CSV30)

人と暮らしの未来を拓く

私たちクリナップは、システムキッチンのパイオニアとして、新たな食住空間の可能性を広げ、創造し、世界中のすべての家族から選ばれ続ける企業となります。

重点
指針

- 1 キッチンメーカーとして新たな事業領域に挑戦し、安定した収益基盤をつくらせている
- 2 顧客接点の多様化、デジタル化に対応し、より身近で選ばれ続ける存在になっている
- 3 人財を活性化し、能力を最大限発揮できる職場づくりを実現できている
- 4 持続可能な社会の実現に貢献できる会社になっている

「21中計」ESG・SDGs課題解決との関係性

持続的な社会の実現に向けて、事業を通じ重要課題(ESG・SDGs課題)の解決に取り組む

非財務目標 2013年度比温室効果ガス50%削減、社員エンゲージメントを把握し公表

重要課題	製品・サービス等を通じた暮らし価値の提供	働きやすい職場づくり	環境保全と環境負荷軽減	公正で誠実な企業活動
	S	S	E	S・G
SDGs項目	3 持続可能なエネルギー、6 清潔な水と衛生	5 ジェンダー平等、8 豊かさと経済成長	7 持続可能なエネルギー、12 持続可能な消費と生産	3 持続可能なエネルギー、4 質の高い教育をみんなに
	9 持続可能な産業と雇用、11 持続可能な都市とコミュニティ	10 人や国を越えての公平な社会	13 気候変動に具体的な対策を	17 パートナーシップで社会を元気に

「21中計」基本方針と戦略

クリナップグループの強みを発揮し、「持続的な成長」を実現します

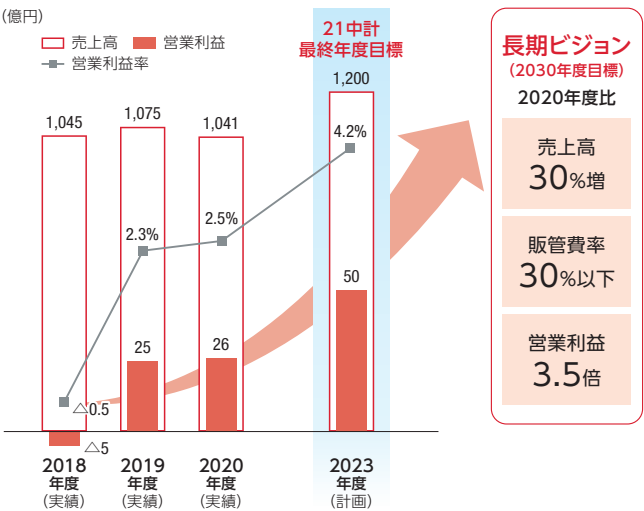
- 1 既存事業の収益力向上
- 2 事業領域の拡大
- 3 成長のための経営基盤強化

既存事業の需要開拓、低収益からの転換
水まわり3品(キッチン、浴室、洗面)事業での安定した収益確保に取り組む

新規事業による新たな顧客の創造
中長期的な成長戦略として、新たな顧客の創造に取り組む

ESG／SDGs視点での経営基盤の強化
持続可能な社会の実現に向けて、事業を通じ重要課題(ESG・SDGs課題)の解決に取り組む

「21中計」数値目標



主なトピックス

システムキッチン

STEDIA

新「STEDIA」誕生!

あこがれとホンネを両立する 新対面プラン登場!

2018年のブランド刷新から、初の大規模モデルチェンジとなる中高級価格帯システムキッチン、新「STEDIA」(ステディア)が登場します(2022年2月1日受注開始予定)。

近年、LDK一体型の間取りが人気で、対面キッチンのレイアウトが主流となるなか、理想とする「開放感があり、かつ、空間をきれいに保つキッチン」を実現させるために、新STEDIAに新しい対面プラン「デュアルトップ対面」が誕生しました。

“がんばらなくてもすぐにキレイになる”アイテムがいっぱい。松たか子さんによる新CMも2021年11月より公開、TVやWEBをミックスしてのプロモーションが始まっています。

STEDIA
ステディア

新「STEDIA」コンセプト:「理想の暮らしをがんばらずに」。

『デュアルトップ対面』で、がんばらずに実現する憧れの対面キッチン

「新しいキッチンは魅(み)せたいけど、手元は見られたくない」。

開放的な対面キッチンを検討するうえでのこの悩みを解決したい、との思いで生まれた新しい対面プラン。

ポイント

- 1 LDK空間コーディネートに合うデザイン。
- 2 開放感がありながらキッチンへの視線は遮る高さ設計。
- 3 憧れの対面キッチンでも、お求めやすい価格設定。

「流レールシンク ワイド」誕生



間口90cmのワイド型が新登場で
水仕事スペースを十分確保

「美コートワークトップ」登場



親水性のセラミック系特殊コーティングで
お掃除の手間を軽減

スライドパントリー



食器類やストック食品、家電、
ゴミ箱まですっきり収納

システムキッチン

ラクエラ

基本プランの内容を刷新!

デザイン性の強化



普及価格帯システムキッチン「ラクエラ」がデザイン性を強化。初期検討の目安となる基本プランの内容を刷新することで、よりお客様のニーズに合ったご提案が可能となりました。

扉カラー
ラインナップ拡充

今回追加 11色



合計 30色

基本プランの
内容刷新

人気機能を標準搭載

- 掃除のしやすい「フラットスリムレンジフード」
- 大型シンク「TGシンク」(間口82cm) など



ショールーム施策

イエナカフェア、 オンラインショールームの拡充!

“新しい生活様式”に対応した マーケティング施策

家で過ごす時間が大きく増加し「ニューノーマル」な暮らし方・働き方が定着しつつある今、家づくりをご検討のお客様にリアルとバーチャルの2つのショールームにて積極的に情報発信を行っています。

システムバスルーム

アクリア
バス

コストバランスの良いプラン登場!

「スタイリッシュプラン」



洗面器置きカウンターやサポートバーを省き、アイテムを絞りつつも、大流量のシャワー「ZAAVA」を標準装備したコストバランスの良いプランが登場しました。

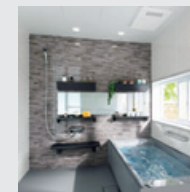
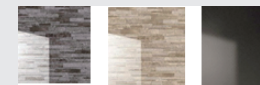
「ZAAVA」:標準シャワーに比べ、温度が1.5℃高く、
シャワー浴に快適なシャワーヘッドです。

ユアシス

人気の内装素材等をモチーフに!

新柄の壁パネルを追加

新柄が加わり、さらにコーディネート
幅が広がるラインナップとなりました。



ショールーム



- 新商品の認知拡大と販売促進を目的
- CENTRO、STEDIA、アクリアバス等の主力商品を紹介

オンラインショールーム



- クリナップキッチンタウン「360°バーチャル体感」オープン

いつでも、
どこからでも
体感!

主なトピックス

新事業関連

Valcucine

新規事業による新たな顧客の創造!

富裕層向け高級キッチン事業を拡大へ

新規事業による新たな顧客の創造を目的として、富裕層向け高級キッチン事業の拡大を図っております。

イタリア高級キッチンブランド「Valcucine」に加え、この度、国内富裕層市場の多様なニーズにお応えすべく、国内高級オーダーキッチンとして、当社工場でのライセンス生産による、Valcucineとの共同開発ブランド「Valcucine JP」を発売しました。

海外高級ブランド

イタリア高級
キッチンブランド

Valcucine

高いデザイン性、革新性、熟練された職人技、そして持続可能な環境配慮、富裕層のニーズに応えるべく作り上げたプレミアムキッチン



国内高級オーダーキッチン

Valcucineとの
共同開発ブランド

Valcucine JP

当社工場でのライセンス生産により、「納期短縮」、「輸入コスト削減」を可能にし、国内富裕層市場のニーズに対応



HIROMA

老舗家具メーカー飛騨産業とのコラボレーション

新生活提案キッチン「HIROMA」の販売開始

2019年より1都3県（東京、神奈川、千葉、埼玉）で先行テスト販売を行っていた新生活提案キッチン「HIROMA」を、2021年10月4日より全国販売を開始しました。11月には専用のECサイトも開設し、HIROMA 代理店様での販売も併せて、オンラインとリアル の両チャンネルでの顧客接点を強化します。

今回の本格販売に合わせてさらに幅広いお客様のご要望にお応えすべく、よりコンパクトなモデルも追加。生活感を感じさせないデザインや機能性から、オフィスやコミュニティ施設などの非住宅など、幅広いシーンでお使いいただけるラインナップとなりました。



先行テスト販売を行っていたスタンダードタイプ



今回新たに追加したロータイプ



SDGsの取り組み

CSR活動

SDGsへ本格的に取り組む

「サステナビリティレポート2021」を公開

昨年度よりESG経営の観点も含めた「サステナビリティレポート」を発行しています。同レポートでは、CSRメッセージをはじめ、SDGs（持続可能な開発目標）に符合した当社の取り組みや、二酸化炭素排出量削減の取り組みについて詳しく紹介しています。

クリナップグループはこれからも、各ステークホルダーの方々のご理解・ご協力を得て、持続可能な社会の実現へ積極的に取り組み、社会に貢献していきます。



スポーツ振興

レスリング部

レスリング女子76kg級

皆川博恵選手「東京オリンピック」で5位入賞

クリナップレスリング部の皆川博恵選手（女子76kg級）が「東京オリンピック」に出場し、見事5位入賞いたしました。

クリナップは1992年にレスリング部を創部以来、企業スポーツとして運営しています。現在は皆川博恵選手（女子76kg級）を含め、3名の選手が活躍しています。生産拠点のある福島県いわき市では、キッズレスリングも支援しています。クリナップは、今後も日本のレスリングの発展に貢献してまいります。

皆川博恵選手の
試合後のコメント

「自分がここまで一つのこと に夢中になって頑張れたのは、今後生きていく中で人生の糧になると思います」

1回戦



ブルマー・オチルパト選手(モンゴル)

準決勝



アライン・フォッケン選手(ドイツ)

3位決定戦



周偉選手(中国)

試合1日目、1回戦・2回戦と順調に勝ち進み、準決勝へと進みました。しかし、「2019世界選手権」で3位の実績を持ち、今回金メダルを獲得したアライン・フォッケン選手（ドイツ）に1-3で惜しくも敗れました。試合2日目、気持ちを切り替えて臨んだ3位決定戦では「2018アジア大会」優勝の周偉選手（中国）にフォール負けを喫し、結果は5位入賞となりました。

連結ハイライト情報／連結部門別情報

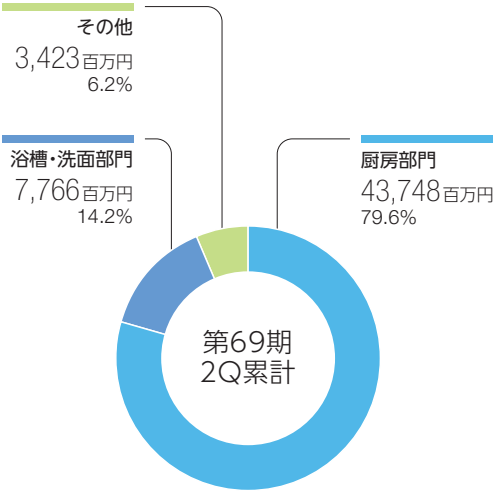
連結財務ハイライト

(百万円)

	第68期2Q累計 2021年3月期2Q累計	第68期 2021年3月期	第69期2Q累計 2022年3月期2Q累計
売上高	47,672	104,185	54,937
営業利益	85	2,614	2,166
経常利益	171	2,714	2,410
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は純損失(△)	△ 142	1,746	1,552
総資産	81,063	83,939	85,023
純資産	50,714	52,761	54,046

部門別売上高(連結)

(百万円)



	第68期2Q累計 2021年3月期2Q累計	第68期 2021年3月期	第69期2Q累計 2022年3月期2Q累計
厨房部門	37,246	82,356	43,748
浴槽・洗面部門	7,160	14,816	7,766
その他	3,265	7,013	3,423
合計	47,672	104,185	54,937

厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「CENTRO」(セントロ)、中・高級品クラスの「STEDIA」(ステディア)、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「ユアシス」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第69期第2四半期連結累計期間の営業概況

市場環境

当第2半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出等の影響により、本格的な経済活動の再開には至らず、依然として厳しい状況が続きました。

住宅設備機器業界におきましては、政府による住宅取

業績・成果

このような中、当社グループは、10年後を見据えた長期ビジョン「クリナップ サステナブルビジョン2030」及び新たな3ヶ年計画である「2021年中期経営計画」を策定し、推進してまいりました。

商品面では、2021年6月にコンパクトキッチン「コレティ」、9月にはシステムキッチン「ラクエラ」やシステムバスルーム「アクリアバス」、「ユアシス」において、お客様のニーズを捉えた強化を行うなど、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、6月に姫路ショールームを移転オープンしました。全国102ヶ所のショールームにおいては、事前来場予約の促進、感染防止策の徹底など、安心・安全に商品を体感できるよう努めております。さらには、自宅などから直接相談できる「オンライン相談」やショールーム見学が疑似体験できる「オンラインショールーム」などのWEBコンテンツを拡充しました。また、当

*VE活動: VE(Value Engineering)は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

得支援策が終了となる影響もあり、新設住宅着工戸数は前年を上回るなど、需要は回復傾向で推移しましたが、世界的な原材料／資材の供給不足、価格高騰の影響なども懸念され、未だ先行き不透明な状況が続いております。

社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店等の流通パートナーと連携し、『イエナカ充実キャンペーン』等の各種イベントを開催し、需要の拡大、獲得に努めてまいりました。

生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動(*)を推進し、原価低減に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高を部門別にみますと、厨房部門は前年同期比17.5%増の437億48百万円、浴槽・洗面部門は前年同期比8.5%増の77億66百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比15.2%増の549億37百万円となりました。利益面では営業利益21億66百万円(前年同期は85百万円)、経常利益は24億10百万円(同1億71百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億52百万円(同1億42百万円の純損失)となりました。

連結財務諸表



■ 連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比7億32百万円増加し、538億75百万円となりました。これは現金及び預金が74百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が8億9百万円増加した一方、電子記録債権が3億1百万円減少したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比3億50百万円増加し、311億47百万円となりました。これは有形固定資産が2億51百万円、無形固定資産が2億18百万円増加した一方、投資その他の資産が1億19百万円減少したことによります。

資産合計 総資産は前期末比10億83百万円増加し、850億23百万円となりました。

	第68期2Q 2020年9月30日現在	第69期2Q 2021年9月30日現在	第68期 2021年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	50,103	53,875	53,142
現金及び預金	21,164	21,936	21,861
受取手形及び売掛金	13,145	—	13,732
受取手形、売掛金及び契約資産	—	14,541	—
電子記録債権	10,567	12,446	12,748
その他	5,226	4,951	4,800
固定資産	30,960	31,147	30,797
有形固定資産	20,208	19,926	19,674
建物及び構築物	7,799	7,354	7,530
その他	12,409	12,571	12,143
無形固定資産	2,641	2,897	2,679
投資その他の資産	8,109	8,324	8,443
投資有価証券	5,439	5,257	5,583
退職給付に係る資産	—	413	306
その他	2,788	2,771	2,672
貸倒引当金	△ 118	△ 117	△ 118
資産合計	81,063	85,023	83,939

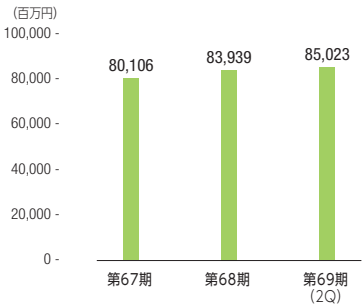
	第68期2Q 2020年9月30日現在	第69期2Q 2021年9月30日現在	第68期 2021年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	22,457	25,293	24,582
買掛金	6,087	6,798	6,509
電子記録債務	5,913	6,719	6,034
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	3,393	3,628	4,190
その他	7,063	8,146	7,849
固定負債	7,891	5,683	6,595
長期借入金	3,460	1,332	2,329
退職給付に係る負債	494	—	—
役員退職慰労引当金	416	416	416
その他	3,519	3,934	3,849
負債合計	30,348	30,976	31,178
(純資産の部)			
株主資本	49,249	51,899	50,769
資本金	13,267	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351	12,351
利益剰余金	24,049	26,699	25,570
自己株式	△ 419	△ 419	△ 419
その他の包括利益累計額	1,465	2,147	1,992
その他有価証券評価差額金	1,712	1,976	1,844
為替換算調整勘定	△ 41	45	△ 11
退職給付に係る調整累計額	△ 205	124	159
純資産合計	50,714	54,046	52,761
負債純資産合計	81,063	85,023	83,939

流動負債 流動負債は前期末比7億10百万円増加し、252億93百万円となりました。これは買掛金が2億89百万円、電子記録債務が6億85百万円、未払法人税等が3億28百万円増加した一方、短期借入金が5億62百万円減少したこと等によります。

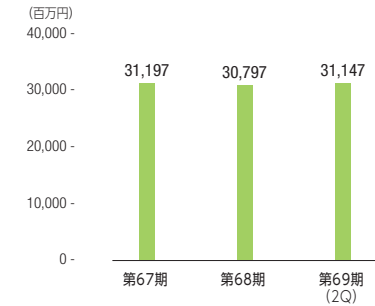
固定負債 固定負債は前期末比9億12百万円減少し、56億83百万円となりました。これは長期借入金が9億97百万円減少したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比12億84百万円増加し、540億46百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益15億52百万円、その他有価証券評価差額金の増加1億32百万円、配当金の支払3億68百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の62.9%から63.6%になりました。

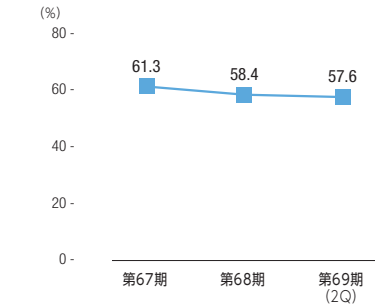
■ 資産合計



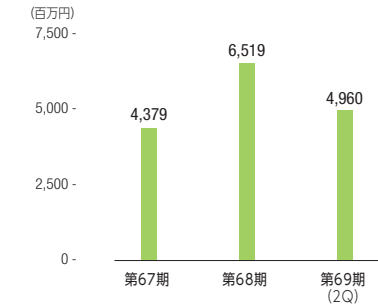
■ 固定資産



■ 固定比率

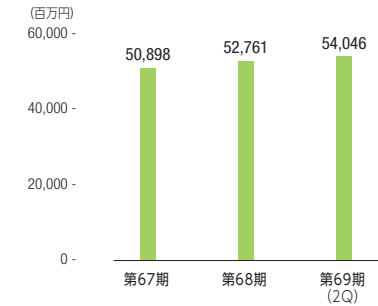


■ 有利子負債

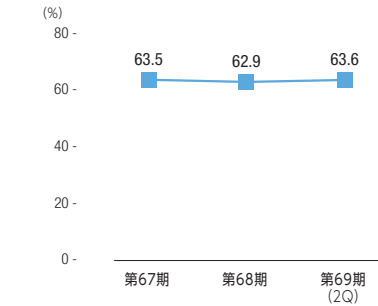


※有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計。

■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表



売上高 政府による住宅取得支援策が終了となる影響もあり、新設住宅着工戸数は前年を上回るなど、需要は回復傾向で推移し、売上高は前年同期比15.2%増の549億37百万円となりました。

売上原価 VE活動の推進など、原価低減に努めた結果、売上原価率が前年同期比0.8ポイント低下し65.5%となりました。

販管費 経費節減や生産性の向上等に努めた一方で、新商品の開発や販売体制の強化、拡販活動等を積極的に行った結果、販管費は前年同期比8億13百万円増加しました。また、販管費率は同3.0ポイント低下し30.5%となりました。

営業利益 増収の影響から、営業利益は21億66百万円(前年同期は85百万円)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益
親会社株主に帰属する四半期純利益は15億52百万円(同1億42百万円の純損失)となりました。

■ 連結損益計算書及び連結包括利益計算書の要旨 (百万円)			
	第68期2Q累計 2020年4月 1日～ 2020年9月30日	第69期2Q累計 2021年4月 1日～ 2021年9月30日	第68期 2020年4月 1日～ 2021年3月31日
(連結損益計算書)			
売上高	47,672	54,937	104,185
売上原価	31,630	36,001	68,695
売上総利益	16,041	18,936	35,489
販売費及び一般管理費	15,956	16,769	32,874
営業利益	85	2,166	2,614
営業外収益	290	290	535
営業外費用	204	46	435
経常利益	171	2,410	2,714
特別利益	130	10	172
特別損失	296	41	345
税金等調整前四半期(当期)純利益	5	2,379	2,541
法人税等	148	827	795
四半期(当期)純利益又は四半期純損失(△)	△ 142	1,552	1,746
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 142	1,552	1,746
(連結包括利益計算書)			
四半期(当期)純利益又は四半期純損失(△)	△ 142	1,552	1,746
その他の包括利益	328	154	855
四半期包括利益(包括利益)	185	1,706	2,601

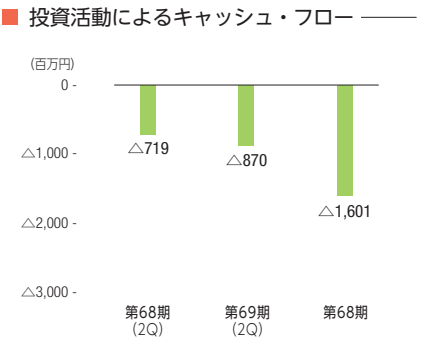
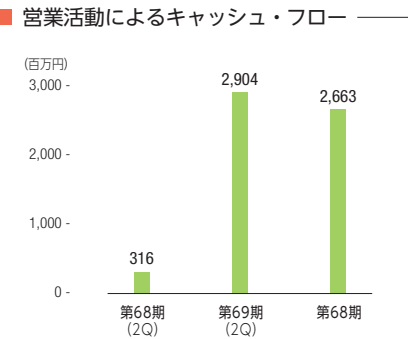
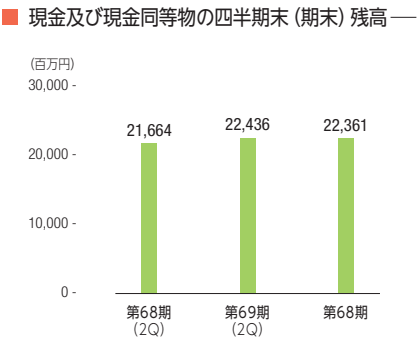
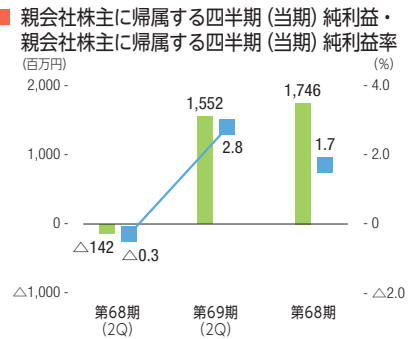
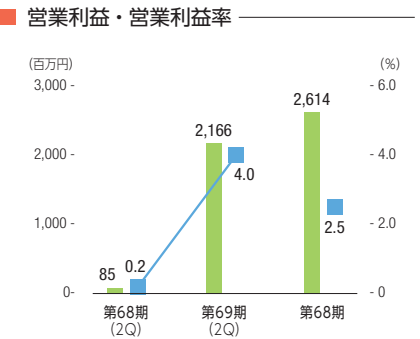
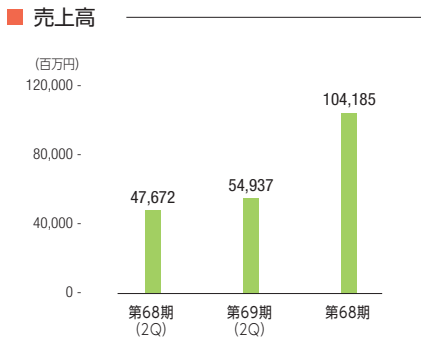
■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)			
	第68期2Q累計 2020年4月 1日～ 2020年9月30日	第69期2Q累計 2021年4月 1日～ 2021年9月30日	第68期 2020年4月 1日～ 2021年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	316	2,904	2,663
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 719	△ 870	△ 1,601
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,022	△ 2,021	1,228
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 16	61	8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,602	74	2,299
現金及び現金同等物の期首残高	20,061	22,361	20,061
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	21,664	22,436	22,361

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果得られた資金は29億4百万円(前年同期比817.1%増)となりました。これは税金等調整前四半期純利益が23億79百万円、減価償却費が14億19百万円、仕入債務の増加9億73百万円があった一方、棚卸資産の増加6億58百万円、未払金の減少2億33百万円、法人税等の支払4億89百万円等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は8億70百万円(前年同期比20.9%増)となりました。これは投資有価証券の償還による収入が5億円あった一方、生産設備の改修、ショールーム移転・改装等により有形固定資産の取得による支出が8億7百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が5億72百万円あったこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は20億21百万円(前年同期は20億22百万円の獲得)となりました。これは長期借入金返済による支出が15億59百万円、配当金の支払が3億68百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の四半期末残高
現金及び現金同等物の四半期末残高は前期末比74百万円増加し、224億36百万円となりました。



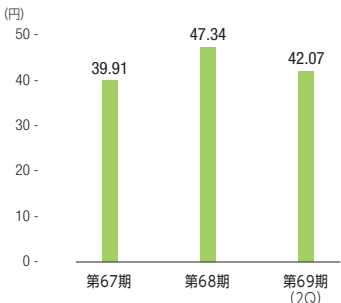
株式関連情報 (2021年9月30日現在)

■ 剰余金の配当について

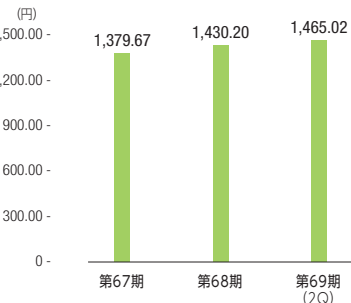
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つとして考えており、配当につきましては、収益の状況および将来の事業展開を勘案し安定的な配当の継続を基本として、決定しております。

以上の方針に基づき、中間配当金は、1株当たり10円とさせていただきます。また、当期の年間配当金は、中間配当を含め1株当たり20円を予定しております。

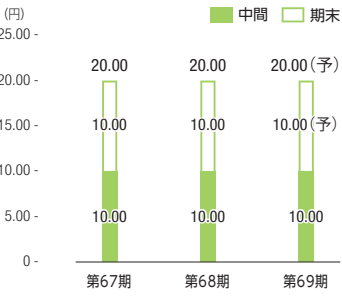
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産

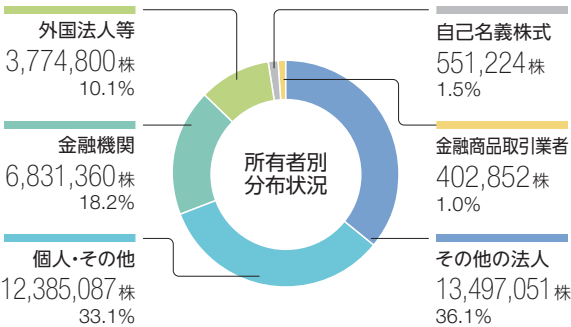


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
発行済株式総数 37,442,374 株
株主数 8,780 名



■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社井上	8,609	23.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,415	6.5
クリナップ真栄会	2,191	5.9
クリナップ共進会	1,999	5.4
株式会社タカヤス	1,829	4.9
クリナップ社員持株会	1,700	4.6
株式会社三菱UFJ銀行	757	2.0
日本カストディ銀行株式会社 (信託口)	715	1.9
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.8
株式会社ミツウロコグループホールディングス	597	1.6

(注) 持株比率は、自己株式 (551,224 株) を控除して計算しております。

会社情報 (2021年9月30日現在) / 株主メモ



■ 会社概要

商 号 クリナップ株式会社
Cleanup Corporation
本 社 所 在 地 〒116-8587
東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
電 話 03-3894-4771 (大代表)
創 業 1949年10月5日
会 社 設 立 1954年10月5日
上 場 東京証券取引所 市場第一部
(証券コード：7955)
資 本 金 132億6,734万円
主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
社 員 数 連結：3,488名／単体：2,958名
主 な 事 業 所 支 社：国内4か所
支 店：国内1か所
営業所：国内128か所 (出張所含む)
海 外：台湾、上海
工 場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島
(いずれも福島県いわき市)
岡山 (岡山県勝田郡勝央町)
津山 (岡山県津山市)

■ 役員

代表取締役会長	井 上 強 一	取 締 役	川 崎 享 ※
代 表 取 締 役 社 長 執 行 役 員	竹 内 宏	取 締 役	千 代 田 有 子 ※
取 締 役 副 社 長 執 行 役 員	小 島 輝 夫	常 勤 監 査 役	山 根 康 正
取 締 役 専 務 執 行 役 員	山 田 雅 二	常 勤 監 査 役	島 崎 憲 夫
取 締 役 専 務 執 行 役 員	大 竹 重 雄	監 査 役	新 谷 謙 一 ※
取 締 役 専 務 執 行 役 員	川 田 和 弘	監 査 役	高 品 彰 ※
取 締 役 専 務 執 行 役 員	井 上 泰 延		

※は社外

■ 株主メモ

事 業 年 度 4月1日～翌年3月31日
期 末 配 当 金 3月31日
受 領 株 主 確 定 日
中 間 配 当 金 9月30日
受 領 株 主 確 定 日
定 時 株 主 総 会 毎年6月
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所 市場第一部
公 告 方 法 電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
電子公告掲載 URL <https://cleanup.jp/>
単 元 株 式 数 100株

【株式に関する手続きについて】

■ 証券会社等の口座に記録された株式
株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等 (口座管理機関) にお問合せください。

■ 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

■ 未受領の配当金

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社

【同連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
電 話: 0120-232-711 (通話料無料)
郵 送 先: 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部